

澤

平成30年1月号

平成30年1月1日発行（毎月1日発行）

第19巻 第1号 通巻214号



「澤曆」平成三〇年……………5

澤創刊二十周年記念準備委員会発足のお知らせ及び
基金のお願い……………6

澤通信句会のお知らせ……………8

小澤 實 曠野 十五句……………14

高橋睦郎 季語練習帖 第九十七回……………16

潺潺集 小澤 實選……………18

杓子 高橋博子
低速 佐藤晃市

レゲエ 左官屋宇兵衛
せんだん 田中敦子

キッチンと宇宙 村上佳乃……………26

獺の娘は 村越 敦……………27

澤の十二句……………28

青木爽／青木弓子／朝野歌子／遊菜／天野正子／天谷信子／有野志げ子／伊井岳子／飯田豊子／池田慶子／池田瑠那／石崎鬼門／石田秀子／石橋志野／磯貝一沙／石見光夫／内野永子／遠藤ちひろ／及川 澄／大木圭之介／大木由美子／太田恵子／大竹安子／大谷景子／大塚ふみ／大西無暦／大野善雄／岡田千代美／岡本春水／おきのさらら／小串安代／小澤松城／押野 裕／小田まり／葛西省子／笠井たかし／梶等太郎／片岡昌子／加藤鋳物／金澤諒和／加納 燕／上村雛子／川口正博／川崎榮子／河辺柚里／川又憲次郎／岸トミ子／北沢豪太／桐生真地／櫛 博子／倉敷児島／蔵田かをり／黒澤佳子／今朝／小池風子／小泉和子／ころん／近藤信男／阪田文子／左官屋宇兵衛／佐藤昭子／佐藤晃市／佐藤涼子／椎野順子／汐見寿美恵／シシオ澤ガイ／篠崎弥生／篠田じゅん子／嶋田恵一／柴田照子／下久保恵子／周藤迪之相／新澤 岳／杉野正恵／鈴木尚子／鈴木桃子／瀬戸 悠／妹尾 題弘／汕としこ／大文字明成／大文字良／たが啓子／高

昼餉

丸窓

円座

耳の穴

小袋分け

ざあつと

胸せ

葛

証券市況

古稀

新走り

拒否

宙寶

松野篤子

池田慶子

結城あき

中井亜由

川上弘美

高橋まり子

梶等太郎

長谷川照子

北沢豪太

葛西省子

生井敏夫

高村チカ子

栗生

特集／野崎海芋句集『浮上』を読む

轟音を聞く主体は 正木ゆう子……………24

取恒子／高野麻衣子／高野美智子／高橋和志／高橋博子／高橋まり子／高橋美穂子／宅間 進／竹内茂子／竹岡たつ子／竹村さざり／竹村翠苑／竹本栄吉／田中明子／田中敦子／田沼和美／筒井多恵子／角田康輔／鶴見澄子／手塚祐子／寺島 麦／戸田いぬふぐり／戸谷照子／豊澤泰子／豊田・ヌー／中川ノエ／中田富子／中村 麻／中村園子／中村敏彦／中山雅弘／生井敏夫／鍋山紀子／西澤千草／沼田美山／野口桐花／野崎海芋／野澤 雄／長谷川照子／埴 幸子／馬場尚美／早崎直子／林 雅樹／林 素子／原島千代子／半田羽吟／東徳門百合子／菱田嘉春／平井あい子／廣瀬 武／廣瀬温代／廣瀬鳴沙／藤江 梓／藤田基夫／富美恵／冬魚／文屋 順／鳳 佳子／堀田季何／堀江嘉子／本郷 澄／眞瀬雪延／町田無鹿／松野篤子／松本孝子／美倉かな／水田晴子／水谷敦子／水谷り得子／溝川真砂子／宮川それいけ／宮崎玲子／宮下晴吾／宮田應孝／村上佳乃／村越 敦／村嶋正浩／村田さやか／村戸弥生／望月とし江／森美代子／森下秋露／森永一正／森山くるみ／八木橋やえ子／山岸樵鹿／山口刃心／山田渥子／大和寿美子／山中広海／矢野明日香／結城あき／弓緒／横山愛子／吉川千早／余村光世／渡邊蒼舟／渡邊のぶお

平成三〇年度澤三賞選考委員／新同人選考委員……………59

俳句結社誌を読む

「海棠」秋号（第3号）高橋博子……………78

鼎談 澤の流れのように……………60

平成二十九年の澤俳句 加藤鉦物／鈴木尚子／中村 麻

定例会の秀句 梶等太郎……………80

澤俳句鑑賞 212

通信句会の秀句 佐藤昭子……………82

梅崎実奈……………68

藤江 梓……………70

潺湲集巻頭作家エッセイ 周藤迪之相……………84

窓

俳書を読む

澤集巻頭作家インタビュー 中村 麻……………85

宗田安正『巨人』／中原道夫『一夜劇』／大坪景章『椿

垣』／益永孝元『甲子園出場』／益永涼子『俳句甲子園出

場』冬魚……………72

同人代表句 小池風子／大塚禎三……………86

同人一句鑑賞 小田まり／岡田千代美……………87

詩文学芸書を読む

左右社編集部編『メ切本』『メ切本2』

澤衍……………88

村上佳乃……………74

澤四十句 小澤 實選……………90

総合誌俳句鑑賞

「俳句」十一月号／「俳壇」十一月号 町田無鹿……………76

選後独言 句末に秋と置く 小澤 實……………92

澤集 小澤 實選……………94

澤句会・カルチャー一覧……………132

蔵田かをり／柳元佑太／池田瑠那／村上佳乃／角田康輔／

広告……………133 後記……………138

加藤鉦物／町田無鹿／望月とし江／細野里五郎／原島千代

子／宮田應孝／八木橋やえ子／鈴木桃子

表紙デザイン・山口信博

新入会員／12月号発送報告……………125

消息……………126

正誤表／第207回定例会1月ご案内……………127

「新同人候補者推薦」「同人二〇一七年の一句」について／
平成三十年度同人会費について……………128

澤俳句叢書一覧／

「俳句を豊かにするもの」原稿募集のお知らせ……………129

購読料更新のお知らせ／澤基金募集のお願い……………130

澤基金応募者芳名／投句のご案内……………131

・創刊二十周年の準備を始めた。本年は前前になる。まずは東京都内に会場をおさえることからお願いした。日程、会場が決まったら、すぐにお知らせする所存である。

・二十周年記念準備委員会は、現在のところ生井敏夫会長ただひとりだが、これから全国の仲間へ声をかけて加わっていただくつもりである。本号から周年基金募集も開始した。お世話になります。

・本年度の「俳句年鑑」の「昨年度の収穫八〇代以上女性」に関悦史さんが、竹村翠苑・湯浅萬里子・河辺柚里の三人をお取り上げくださった。本年鑑には三人以外にも澤の俳人がたくさん紹介されている。誇らしく頁を繰ったことであつた。(小澤 實)

・今号から「澤俳句鑑賞」執筆者が鴎田智哉さんから梅崎実奈さんに。鴎田さんには独自の視点から澤俳句を読んでいただいた。ありがとうございます。梅崎さんは新宿紀伊國屋書店にお勤めで、あらゆる文芸書に精通。俳句純粹読者の読みにわくわくする。

・内部執筆も鈴木尚子さんから、藤江梓さんへ。尚子さんに多謝。梓さんよろしくお願ひします。(望月とし江)

・第二百回の通信句会に参加。澤関西と通信句会に育てて頂いたと、あらためて感じた。

・ツイッターで知り合った地方在住の俳人に澤通信句会を薦めたところ、しばらくして見本誌の取り寄せをしたとの返事があつた。

・地元メンバーだけでの月例会に飽き足らない思いを抱えていたこの方が、百名規模の通信句会で開花されることを期待している。(加藤鉦物)

・澤の十二句、選びたい句が

多く絞るのがつらいのだが、今回は悩む気持ちを抑え素早く選んだ。結果、今年も自分を色濃く反映した面白い選ができたのでは、と自負している。皆様の選も、それぞれのお顔を思いだしつつ楽しみたい。毎年まとめてくださった川又憲次郎様にも感謝です。

・200回を迎えた通信句会、全回参加者が5人もいらつしやることに驚く。(加納 燕)

・西暦と昭和の年度変換は五年違いであつたので変換が比較的容易であつたが平成になつて難しくなつた。西暦二〇〇〇年以降は下二桁に12を足すと平成の年度になる計算式が成り立つようになり、ようやく慣れてきたのに、新年号ではまた新たな計算式が必要になる。新年号元年が西暦二〇一九年。新年号に18を足すと西暦の下二桁になるという計算式に慣れるのにどれくらいの時間がかかるだろうか。(瀬川耕月)

・平成も三十一年四月まで。その年一月、天皇は在位三十三周年を迎える。昭和天皇崩御の日、東京の沈黙の記憶は今も鮮やかなのに改元は夢のようだ、と言えば三代を知る翠苑さんは笑うにちがいない。

・退位と即位を巡り時代はどう変わるのか。それが西暦で言えば二〇一九年。翌年、澤は二十周年、二度目の東京五輪がある。時の流れを思えばなぜか緊張する。(高橋和志)

・通信句会が二〇〇回を迎えた。この句会がすっぱらしいのは、家でゴロゴロしながらも澤の真髄に触られることだ。貪欲に作句する澤衆の三〇〇を超える句群は圧巻。その中から三句を選び出すのは楽しくもありしんどくもある。主宰の選を見て、そんな句あつたかいなと驚くことも。選句の奥深さを知る場でもある。思えば、私の俳句鑑賞はここから始まつた。(冬魚)

・月末はまだ落ちてきている。

大の月だと少し安心する。何の話かといえば、通信句会の締切日である。毎月末日ではなく、何故か一日。(夏休みの宿題を思い出す)ギリギリまで考えて、一日の深夜(たいていは次の日になつている)に送信する。通信句会二百回、次の節目の三百回まで、八年と四か月。長いようでも、あつという間に時間は過ぎるだろう。(山岸樵鹿)

澤

第19巻 第1号 通巻214号

平成29年12月31日印刷

平成30年1月1日発行

発行人 小澤 實

編集人 望月とし江

発行所

166-0001 東京都杉並区

阿佐谷北4-6-19 藤原ビル 201

嶋田方 澤俳句会

電子メール

sawamail@sawahaiku.com

ホームページ

http://www.sawahaiku.com/